

第12回 品質管理交流会 - 日本発条(株)ばね生産本部 横浜工場

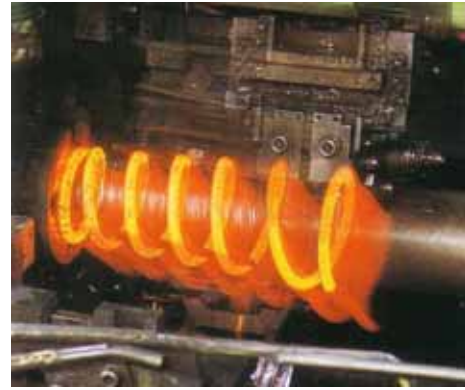
品質管理部会では、他社や異業種の取り組みから改善のヒントを見つけることに主眼を置き、品質管理交流会を実施している。今回は日本発条(株)ばね生産本部横浜工場に品質改善の取組みを紹介戴き、自動車用スプリングの製造ラインを見学させて戴いた。

日本発条方式

日本発条では、顧客からの品質クレームを無くすために3つの柱を中心に取り組んでいる。1つ目は「品質ヒヤリハット」。2つ目は、いつもは監査を受ける側の人逆の立場に立ち、監査をする側の視点を養う「ミニサベ(サーベイ)」。04年より始め22回実施している。3つ目は、「品質推進委員会」。01年より2ヶ月に一度「知識と意識向上」の為に勉強会を実施。2回に1回の頻度で確認テストも行う。これらの活動が功を奏し、顧客からのクレームが殆ど出ないレベルへ上がった。

品質ヒヤリハット活動

「品質ヒヤリハット」とは、現場で何が起きているかをマネジメント層や他の現場へ知らせ、情報と対策を共有化する仕組みで、作業者が品質不具合を発生させそうになりハットした事、及び発生させてしまったことについて、対策と合わせて記入し製造課長、品質課長、工場長へと報告。それぞれがコメントを記入して返すというシステムで、約1週間でサイクルを回している。



コイルスプリングの成型

部会員の企業から「同様な取り組みをやっているが、なかなか報告を出してもらえない」との意見があったが、これに対し日本発条では、「様式をできるだけ簡略化し、初めは情報だけでもいいから、取りあえず出すように」というところから始めたという。「品質ヒヤリハット」は01年度より始め、当初1400件あった報告数も品質が改善されるにつれ05年度には800件へ減少している。

紹介戴いた3つの柱からなる取り組みは着実に成果を上げており、日本発条の品質向上に対するトップの熱意と、現場の意識の高さが伺えた。